



- 調査実施日 2013年11月11日
  - 調査場所 アマソナス州バグア郡アマランゴ町の一般家庭
  - 調査対象 ジョエル(仮名)さん
- 現地通貨ヌエボソル(通称ソル 1米ドル=2.8ソル・2013年11月現在)



## ジョエルさん一家



家族	夫 ジョエルさん(44歳) 妻 (56歳) 長女 (17歳)
世帯収入	月額 600ソル~700ソル
職業	農業
勤務日数	週6日、日曜休み
出身地	ラ・リベルタ州トルヒジョ市

## ジョエルさん (44歳)

職業 農業  
月収 600ソル~700ソル

よく使う交通手段は?  
三輪バイク、自転車

休暇の過ごし方は?  
信仰する教会に行く。趣味と実益をかねた木彫に  
いそむ。

趣味は?  
木彫。



## 買い物スポットは?

日用品や食品、衣類など生活必需品は家から20分のエル・ムヨ村の市で買う。そこで手に入らない品物はバグア市まで買物に出かける。

## 今欲しいものは?

農地。バッテリー式ドリル

農業を営むジョエルさんは、幼い頃に両親とともにトルヒジョ市近郊の山村から移住。両親が建てた家に妻と一人娘と暮らしている。現在は竹細工芸のプロジェクトにも参加し、趣味の木彫を活かし、生活水準の向上を目指している。

電力や上下水道など基幹インフラのない暮らしにこれまで不自由を感じたことはないが、近くに水力発電所が完成し、電柱がたつたので、電力供給が始まれば、電化製品の恩恵で生活が一変することに期待を持っている。

## 妻 (56歳)

職業 主婦。農業手伝い  
月収 なし

よく使う交通手段は?  
乗合バス、三輪バイク

休暇の過ごし方は?  
信仰する教会に行く。エル・ムヨ村に家族で買物に出かけ外食。

趣味は?  
バレーボール愛好家。近所にやる人がいないので最近はお無沙汰。

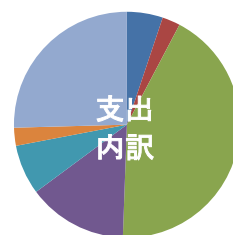


## 買い物スポットは?

日用品や食品、衣類など生活必需品は家から20分のエル・ムヨ村の市で買う。バナナやタロイモは自分で畑で栽培したものを収穫する。

## 今欲しいものは?

電気供給が実現したら冷蔵庫が欲しい。



## 住居 電気のない暮らしに不便感じず



近郊のエル・ムヨ村から峠に向かう街道沿いにマルティネスさんの自宅はある。裏手は沢に下る急な斜面になっている。自宅の脇には苗木を育てる小屋、裏手の斜面にはバナナやカカオなどを栽培している。家はアドベと呼ばれる日干しレンガと木材で作られた質素なものだ。床、土間、部屋の境もすべてアドベだ。

電気、上水道、下水道、電話などの基幹インフラとのアクセスは一切ない。上水道は農業用水と兼用の湧水を利用。生活廃水は裏の沢に直接放流する。携帯電話を利用しているが、充電は他所です。室内照明は灯油ランプである。冷蔵庫など電力の恩恵に憧れも持っている。

所有の有無	所有地
間取り	寝室、台所、作業場、物置
広さ	30 m <sup>2</sup>
居住年数	20年
電気	インフラ未整備。電化製品は持っていない
上水道	インフラ未整備。畑の湧水を利用
下水道	インフラ未整備。裏手に沢に放流
ガス	ポンベ交換式。36 ソル/月
電話	携帯電話 30 ソル/月
インターネット	インフラ未整備。
ケーブル TV	インフラ未整備。

テレビ	なし
冷蔵庫	なし
洗濯機	なし
ガスコンロ	譲ってもらった中古品を利用
ミキサー	なし
ステレオ	なし
DVD	なし
電子レンジ	なし
炊飯器	なし
掃除機	なし
PC	なし



正面の広い軒先は三輪バイクタクシーの駐車場として貸している。



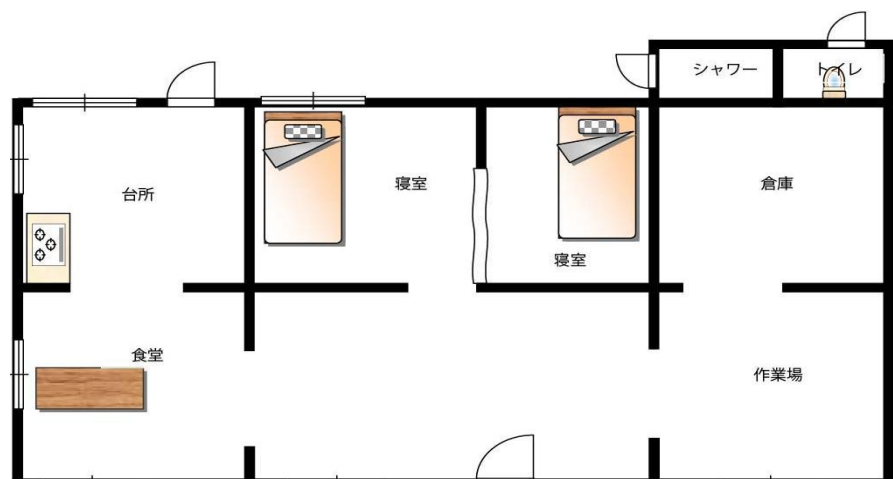
左：食堂から台所を望む。台所にはかまどが据えられている。食用のテンジクネズミが放し飼いになっている。二つの部屋の間に灯油ランプが吊るしてある。  
右：長女の部屋を覗かせてもらった。年頃の女の子の部屋らしく、かわいらしいデコレーションであふれている。ナイトテーブルには化粧水などコスメティック製品が並ぶ。



家の裏手のトイレとシャワールーム。生活廃水はそのまま沢に放流している。



夫婦の寝室





## 調理はかまど中心。特別な日には外食も

食事は身近に手に入る食材で作る素朴なものが多いが、比較的温暖な気候のため、食料がなく飢えに苦しむということはない。

食材はコメ、バナナ(調理用、生食用)、タロイモ、ジャガイモ、大豆、ソラマメ、レンズ豆、インゲン、キヌア(アンデス原産の雑穀)などの野菜を主に使い、自宅で飼っているテンジクネズミ(クイ)と、自宅から自転車で30分のエル・ムヨ村の市場で売っている鶏肉、週に一回行商で売りに来る魚が主なタンパク源。魚の値段はキロあたり10ソルだ。

食事は朝、昼、晩の3回。メニューはさして変わらない。朝はふかしたタロイモか焼きバナナ、卵焼き、鳥の臓物と野菜のスープ、昼は上記のスープと炊いたコメと食べる。

調理は、必要な火力に応じてガス台と薪のかまどを併用している。費用のかからず、手軽なかまどを使うことが多いようだ。

自宅には電気が供給されていないため、食材の台所で常温のまま保管されている。従って、食材を駄目にしてしまわないよう買物は必要最小限の量に限っている。

水は農業用水と兼用の湧水を使っており、飲用水は煮沸の上、タッパーに保管する。

日曜日はエル・ムヨ村に市が立つ。この日は食材や雑貨類などを買いに家族総出で村に出かける。普段は家事と農作業の手伝いに忙しい妻を気遣い、村の食堂で外食する。家族3人の出費は食事と飲物込みで20ソルである。

また、村で手に入らない商品の買い物や特別な記念日には、村からバスで1時間のバグア市まででかけ、魚介レストランで外食をすることも。お目当てはスダード・デ・ペスカード(魚介類の煮込みスープ)。家族3人の出費は飲物込みで40ソルだという。



上: まきをくべるかまど。ガス台も持っているが、強い火力が必要なお湯をわかすなど用途は限られている。右: 食堂のテーブル。



上左: 冷蔵庫がないため、生鮮食材は必要最小限しか買わない。余ったセロリやハーブ類が台所の片隅に吊るしてある。上右: 保存のきくジャガイモは多目に買っている。



上左: 食用として家のなかで放し飼いでいるクイ(テンジクネズミの一種)。野菜くずを与えさえすれば増殖する。上右: 同じく食用として自宅で飼育している鶏。卵を温めている。



### 本来の伝統的な「市」とは

アンデス山間部は地形が険しいため道路上の距離は直線距離を大きく上回り、住民が点在して暮らしていることから大規模な小売業は成立し辛い。そういった地域の経済活動を伝統的に支えているのが「市」である。農産品や食肉、魚介類などの生鮮食品のほか、生活雑貨や衣類に至るまで各自が持ち寄った品物を売買できる流通システムである。

市は伝統的に物々交換の場であったものが、1969年の農地改革以降に貨幣経済が定着すると豪商があらわれ、写真右下のような卸売業者も登場するようになった。



## タイムテーブル

### 平日

	ジョエルさん	妻	長女
5:00		起床	
6:00	起床		起床
7:00	朝食	朝食	朝食
8:00	農作業	農作業	通学
9:00			授業
10:00		昼食の準備	
11:00			
12:00			
13:00	昼食	昼食	帰宅
14:00			昼食
15:00	農作業	家事	
16:00			
17:00			
18:00		夕食の準備	
19:00	夕食	夕食	夕食
20:00			
21:00			
22:00	就寝	就寝	就寝

### 休日（日曜日）

	ジョエルさん	妻	長女
8:00	起床	起床	起床
9:00	教会に行く	教会に行く	教会に行く
10:00			
11:00			
12:00			
13:00	教会から帰宅	教会から帰宅	教会から帰宅
14:00	昼食（外食）	昼食（外食）	昼食（外食）
15:00	市で買物	市で買物	市で買物
16:00			
17:00			
18:00	夕食	夕食	夕食
19:00			
20:00			
21:00			
22:00	就寝	就寝	就寝

#### 取材ノート:

アマソナス州はペルー北部山間部に位置する貧困率の高い地方。米作以外にこれといった地場産業もなく、天然資源にも恵まれない同州は、資源産業の営業収益から得られる所得税が源泉の地方交付税の交付も受けられない。ジョエルさんは1歳のときに両親とともに海岸地方ラ・リベルタ州の州都トゥルヒージョ市から移住。妻のフスティナさんもアマソナス州に隣接するカハマルカ州山間部の寒村セレンディンからの移住者である。

ジョエル一家が買物によく出かける近郊のエル・ムヨ村も含め、昼間から仕事もせずにブラブラしている男性が目立つ。貧しいながらも日々の生活をまかなうだけの収入だけを得る暮らしに満足している人が多い中、ジョエルさんは信仰の力も借りて、趣味とは思えない技量に達している木彫に打ち込み、竹細工のプロジェクトでも中心的役割を果たすなど、さらなる生活水準の向上を目指し奮闘する姿は心を打った。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。